I　日本近代の文学者たち

田山花袋――肩越しにみた田山花袋……『蒲団』 009
永井荷風(一)――都市を遊歩する……『濹東綺譚』 059
永井荷風(二)――文学としての日記……『断腸亭日乗』 078
志賀直哉――短篇小説の緊張感……『好人物の夫婦』『范の犯罪』 096
谷崎潤一郎――近代日本の開化……『小僧の夢』 108
宇野千代――女の文体……『或る一人の女の話』 121
川端康成――「別の世界」……『無言』『匂う娘』『夫のしない』 142
三島由紀夫――芸術の濫用……『愛の渇き』 150

II　日本文学のとらえた光と影

「エッセー」と「随筆」――筆にしたがって…… 157

女の文学――現代日本の女性による短篇小説を読む ……183
日本の近代文学の遺産――歌舞伎の一側面 ……226
光と影 ……239

Ⅲ　日本文学、いくつかの発見

三島由紀夫、逆立ちしてみせた伝統主義者 ……253
アール・ヌーヴォの川端康成 ……267
セ・ラ・ヴィ――小林秀雄の思い出 ……285
兼好とモンテーニュ ……292
現代日本のエッセー ……297
「関係」こそ主人公 ……302
女の文学雑感 ……307
津島佑子の世界 ……313
〝幸福のかけら〟――現代日本の女性文学はドイツでどう読まれたか ……318